

錦鯉の餌

餌やりは飼育者にとって楽しみのひとつですが、与え方を間違えると愛鯉を死に至らしめることがあります。

餌の量



馴れると手から餌を食べようになる

錦鯉は水温が高いときは消化能力が高くなるので食欲もありますが、逆に水温が低くなると消化能力が低くなって食欲もありません。

そのため、夏には多めに餌を与え、冬には餌をやらないのが通常の飼育方法です。

餌の量は「5分間ルール」と言われますが、5分以内に鯉が食べる量を与えるのが最適とされます。

また、鯉には胃がないので一度にたくさんの量を食べることができません。ですから、一日に何度かに分けて餌を与えるとよいでしょう。

なお、冬に餌を与えずに過ごした錦鯉は絶食状態なので、春に餌をやりはじめるにあたっては、注意深く行なわなければなりません。具体的には、消化のよい餌を少しずつ与えるのがよいでしょう。

餌の種類

錦鯉は人間が食べる物なら、ほとんど食べることができます。しかし、健康に美しく育てるならば、市販の配合飼料を使用したほうがよいでしょう。配合飼料は錦鯉の性質などを配慮して研究されているからです。

錦鯉の餌には用途別にさまざまな種類があります。一例として、春先や加温して冬にも餌を与える場合は「低水温用」、錦鯉の色を鮮やかにする「色揚げ用」、大きく育てることを目的にした「増体用」などがあります。「色揚げ用」や「増体用」は錦鯉の消化能力が高い夏に与えるのが普通です。

餌のパッケージには、与えるのに適した水温や注意事項などが記載されているので、参考にするとよいでしょう。



エフディーフード㈱ ㈱河口商店 ㈱キョーリン ㈱小西養鯉場 ビ・エックス商会
(有)松江錦鯉センター ㈱ミシロ 山源㈱

餌の保管

どんなによい餌でも、古くなっては錦鯉に悪影響を及ぼします。開封したら早めに使い切るようにしましょう。

保管場所は冷暗所がよいでしょう。冷蔵庫でも問題ないですが、冷蔵庫から出してすぐに開けると水分が餌に付着し、腐敗やカビのもとになります。常温の場所に出して、室温と同じくらいになってから開けるとベストです。